

◆ 小学校実践事例 ◆

事例⑦ 第1学年・5月

主として関連する10の姿：協同性、思考力の芽生え、言葉による伝え合い

「はじめての話し合い活動から実践へ

— 幼児期の経験を生かして、子ども主体の活動とするために —

子どもの姿

入学直後の子どもたちは、新しい友だちや先生との出会いに、期待も不安もいっぱいです。1年生のカリキュラムには、そんな不安や緊張を和らげるような、遊びの要素を取り入れた内容が多く組み込まれています。特別活動の単元「どうぞよろしくねパーティーをしよう!」は、「みんなで仲良く楽しくできる遊びを決めよう」というねらいのもと、クラスみんなで仲良く遊べる遊びについて話し合いました。就学前に夢中になって遊んできた子どもたちは、どの子も遊びの名人です!

園でのあそびや経験をつなぐ

保育園では、園庭や公園で沢山の人数で鬼遊びをしたり、室内でクラス毎にわらべうたや運動遊びなどをしたりして、たくさんさんの遊びの経験があります。4〜5歳児にもなると、さらに楽しい遊びになるように、鬼遊びのルールを友だちと話し合っただけで少し変えてやっている姿もあります。どうして変えるのか、理由を話し合う機会もじっくり確保して聴き合うようにするのが大切ですね。

(保育者)

小学校では、特別活動や生活科等の学習を中心に、就学前の遊びの経験を生かした活動が多く含まれています。また、様々な園から集まった1年生は、お互いの経験や体験を伝え合う活動を通し、さらに遊びを広げていきます。どんな活動も、小学校1年生からのスタートではなく、就学前から既にスタートを切っており、小学校では、それらの経験を繋げ、さらに深めていくことが大切です。

(小学校教員)

子どもたちは、心の内に自分の思いや考えをいっぱいもっています。事例に見られる、生き生きと自分の思いを伝える子どもたちの姿は、乳幼児期から積み重ねてきた人への信頼感や、自分の思いを言葉にして伝える喜びを感じてきたからこそ。入学して初めての環境で生活する1年生にとっては、担任の先生とのあたたかな関わりがすべての活動の土台となります。一人ひとりの子どもに寄り添った丁寧な個別の支援や、自分の伝えやすい方法を選べる環境の工夫など、事例の活動の中には、子どもたちの思いや考えを引き出すヒントがたくさん散りばめられています。

(コーディネーター)

子どもの学びや経験

■考えを「①だしあう」



ぼくは、桃太郎の鬼ゲームをやりたいです。わけは、幼稚園でやったら楽しかったからです。

行動発言

- ・初めての話し合い活動なので、教師が進行役となることで、どの子も安心して参加できる雰囲気をつくり出します。
- ・事前に会議ノートに自分の意見を書いておくことで、安心して自分の意見を伝える姿に繋がりました。子どもたちからは、黒板が一杯になるほどたくさんの意見が出ました。

→みんなの知らない遊びが出てくると、「どんな遊びかわからない!」という意見が上がりました。次の「②くらべる(わかりあう)」で遊び方を共有することにしました。

ポイント

■充実した話し合いに繋がる工夫



桃太郎の鬼ゲームってどうやってやるの? やり方を教えてくれる?

はないちもんめ知ってる人!一緒にやってみようよ。



◎配慮事項(教材の工夫等)

- ・「くらべる(わかりあう)」では、「だしあう」で出たわからない遊びについての説明から始まります。実際にその場で遊んで見せたり、事前に撮影しておいた動画を見せたりしながら、遊び方をみんなで共有することが大切です。その為にも、事前の準備が必要です。
- ・「まとめる」では、賛成票が多く集まったものに決定するのではなく、「めあて」に沿った遊びを決めていきます。その為にも、子ども達がめあてを意識して話し合いを進めていくことが大切です。

■考えを共有する「②くらべる(わかりあう)」

なんでもバスケットと言ったら、みんな動かないよ。白い靴下を履いている人と言ったら、その人だけ動くんだよ。



行動発言

- ・遊びの説明を求められた子から、「先生、今ちょっとやってみていい?」と話がありました。その子は遊びを知っている友達を集め、実際にやって見せました。
- ・説明することが不安な子には、担任と一緒に言葉を添えることで、安心して伝えられるようになりました。
- ・遊び方をみんなで共有することで、一人ひとりのやりたい遊びが明確になり、友だちの出した遊びも「おもしろそう!」と興味をもてるようになりました。

■みんなの意見を「③まとめる」

・みんなの考えをすり合わせて、遊びを2つに絞っていきます。

自分がやりたかった遊びじゃないけど、やってみたら楽しいかもしれないな。

「かごめかごめ」は心配です。まだ名前を覚えていない人がいます。後ろにいる人を当てられなかったら楽しめないからです。



みんなの意見をまとめると、なんでもバスケットがいいと思います。わけは、みんなが楽しめるからです。



そうだね。私は、まだ全員の名前を覚えていないから、鬼になっても、後ろの人が全然わからなかったら、つまらないね。

■パーティー当日 みんなで決めた「はないちもんめ」で遊ぶ場面



はないちもんめを初めてやったよ!すごくおもしろい遊びだね。

会合の練習は何度もしたから大丈夫!!



行動発言

- ・話し合いの中で、友だちの説明を聞いて、様々な遊びに興味を広げていた子どもたち。初めての遊びでも、楽しんで参加する姿に繋がりました。
- ・話し合いから準備、実践まで子ども達自身が作り上げたパーティーに喜びを感じた子が多数いました。「次はいつできる?」との声が上がりました。